

第2期 三方五湖自然再生協議会事業実施計画（素案）への意見と計画への反映について

水質に関すること

寄せられた意見	計画への反映
湖の自浄能力と富栄養化物質、化学物質の負荷の割合を数値化するなど見える化が必要	【追記なし】全体構想の目標6の評価手法（水質環境基準値）を用いてモニタリング継続
湖底は泥深く、水はすぐに濁る。三方五湖全体の水質改善が必要	
大雨が降るとハス川や三方五湖が濁る。水源となっている森林の状態が影響しているのではないか。森林管理も課題	【追記なし】計画への追加記載はしないが、課題として議論をはじめめる。

普及啓発に関すること

寄せられた意見	計画への反映
地域住民や田んぼ所有者の湖に対する保全意識を高めることが重要。特に濁水の河川への流出防止の協力をお願いすることが大切	【追記なし】農法部会や環境教育部会等で普及啓発を継続
住民の水環境への意識を向上できるよう具体的な体験活動の場の提供が必要	【追記なし】環境教育部会と各部会事業と連携して体験活動を行っていく。

調査研究に関すること

寄せられた意見	計画への反映
水田で育て湖へ放流したフナ、コイの稚魚の生存率は不明。把握できる調査手法がないか。生育環境の整備を関係部会で進めていくべき	【追記なし】基礎資料の収集については、計画への追加記載はしないが、事務局において研究者等から意見を聞きながら必要な調査等について議論・検討する。
タモロコやテナガエビ、ゴカイなど生き物は減少している印象。漁獲量の減少は魚の絶対量が減っている可能性。水質や生物の再生産の場の消失が考えられるが、対策には原因の解明が必要。一方、漁獲量が多い海の魚種（ボラ）がいる。	
底質、生き物のつながりの変化などの科学的な解明が課題。課題解決に向けた研究テーマがあるという共通認識を持つことが重要	
2011年から2012年に県が湖の魚類調査を実施。その後10年が経過し魚類相や湖の生き物がどのように変化しているかモニタリングが必要	

部会の取り組みに関すること

寄せられた意見	計画への反映
魚類や他の生物（在来種）の再生産ができる河川の在り方や水辺の環境の改善が重要。特にハス川。	【追記なし】第2期実施計画を進めていく。
シジミの増産、生業としてのシジミ漁が課題 漁場、水と親しむ場所の創出、イベントの実施 環境モニタリングが重要	

数値目標に関すること

寄せられた意見	計画への反映
計画に記載する環境指標や数値目標は、根拠があり共感が得られるものを設定すべき。間違った設定は反感につながる。設定しないという判断もある。	【検討反映済】第2期計画（案）8モニタリング及び評価手法を参照

その他の意見

寄せられた意見	計画への反映
河川上流にある大小の堰堤にある堆積土砂の確認、自然災害に対する問題共有が必要	【追記なし】計画への追加記載はしないが、事務局において県関係機関等から意見を聞きながら課題等を議論していく。